

平成21年度 学校自己評価シート（盈進学園 東野高等学校）

目指す学校像 （教育目標）	日本国憲法、教育基本法の精神をふまえ、次の人間教育を目標とする。 1.自主性を持ち、責任を重んじる人 2.勤労を愛する、まじめな人 3.個人の尊厳を重んじ、命を大切にすること 4.すべての暴力、非人間的行為を排し、平和を求める人 5.いかなる困難にも耐え、真理を求め生き抜く人
------------------	---

評価目標	1.学校の教育力の向上を目的とする。 2.目指す学校像から、具体的に重点目標を設定し、実行し、自己評価を行う。 3.学校関係者評価（保護者や学校と直接関係のある人）が教育活動について意見交換などを通じて、自己評価の結果に対して評価を依頼し、教職員との共通理解の中で学校改善を図るものとする。 4.勤務評定の利用、個人が特定されないよう配慮する。
------	---

評価基準（達成度） A（よく当てはまる） B（当てはまる） C（あまり当てはまらない） D（全く当てはまらない）

◎教育活動の活性化

（平成21年度は平成20年度の結果を踏まえ学校生活における基本的習慣を点検し評価し改善する。）

1学期の評価項目・評価		A	B	C	D	計	年度評価
1	生徒に聴く姿勢を持たせることができたか	11人	19人	3人	0人	33人	B
2	身だしなみの徹底を図る為の指導ができたか	8人	20人	6人	0人	34人	B
3	学習環境を整えることができたか	15人	13人	6人	0人	34人	A
4	学力を向上させる授業ができたか	6人	22人	8人	0人	36人	B
5	授業規律を守らせることができたか	25人	11人	1人	0人	37人	A
6	生徒の自治活動に対して、積極的に関わられたか	8人	14人	11人	2人	35人	B

総評・改善等
学年集会、全体集会を通じて徐々にではあるが徹底できつつある。
生徒指導部を中心として朝の挨拶、身だしなみ指導を徹底した。
担任と授業担当者との連絡が大切である。
教科内ならびに教務、進路指導との連携が必要である。
学校としての重点的取り組みであることの共通認識が不可欠である。
部活動、生徒会（自治会）活動の活性化が必要である。

◎教育活動の活性化

（1学期の評価結果を踏まえ、各項目ごとの点検評価に個人差が出ないように工夫したうえで、評価・改善に当たる。）

2学期の評価項目・評価		A	B	C	D	計	年度評価
1	生徒に聴く姿勢を持たせることができたか	18人	13人	2人	0人	33人	A
2	身だしなみの徹底を図る為の指導ができたか	12人	15人	7人	1人	35人	B
3	学習環境を整えることができたか	14人	16人	6人	1人	37人	B
4	学力を向上させる授業ができたか	7人	19人	4人	0人	30人	B
5	授業規律を守らせることができたか	21人	14人	2人	0人	37人	A
6	生徒の自治活動に対して、積極的に関わられたか	12人	13人	6人	2人	33人	B

総評・改善等
学年集会、全体集会を通じて更なる徹底が図られた。
教員間の共通認識を図る必要がある。
授業担当者個々の工夫が見られた。
引き続き、教科内ならびに教務、進路指導との連携が必要である。
学校として、粘り強く重点的取り組みであることの共通認識もって当たりたい。
次年度に向けて、部活動、生徒会（自治会）活動の活性化は必須である。

平成21年度 学校関係者評価シート（盈進学園 東野高等学校）

◎ 学校自己評価シート(関連諸資料を含む)に基づき、学校生活における基本的習慣のあり方について意見・講評を聴取

◎ 評価基準(達成度) A(よく当てはまる) B(当てはまる) C(あまり当てはまらない) D(全く当てはまらない)

年度の評価項目		A	B	C	D	その他	年度評価
1	生徒に聴く姿勢を持たせることができたか	0人	1人	3人	0人	3人	C
2	身だしなみの徹底を図る為の指導ができたか	0人	3人	3人	0人	0人	B
3	学習環境を整えることができたか	0人	3人	3人	0人	0人	B
4	学力を向上させる授業ができたか	0人	2人	3人	0人	1人	C
5	授業規律を守らせることができたか	0人	1人	4人	1人	0人	C
6	生徒の自治活動に対して、積極的に関わられたか	0人	1人	0人	0人	5人	—

実施日:平成22年3月20日(学校関係者評価委員会合評会)

大学進学コースと総合進学コースそれぞれの評価が必要である。教員の教材や授業展開の工夫等ができれば良くなる。教員の熱意を生徒に伝えることができれば一層良くなる。

生徒指導の成果により殆どの生徒はおおむね良好である。一部の生徒は家庭と協力し改善を要する。

教室によって差を感じる。担任指導で改善は期待できる。

大学進学コースは目標が明確で取組みも概ね良好である。総合進学コースは基礎の定着と授業形態の改善が必要である。教員相互(場合によっては他校との研修)で授業見学し研修してはどうか。

授業形態との関連が深いので工夫が必要である。生徒への注意が一層必要である。

部活動の活性化が必要である。

平成21年度における学校関係者評価委員の活動

- ① 平成22年2月13日(土) 3、4限の授業観察会及び合評会 ・ 自己評価シートの点検 ・ 授業アンケートの点検
- ② 校長において、上記の授業観察会における評価委員からの意見(書)を該当授業担当者へ助言・説明
- ③ 平成22年3月20日(土) 合評会(授業観察会意見交換・学校関係者評価シートの提出)

平成22年3月20日(土)合評会意見交換の記録

時間:13:05 ~ 14:50

場所:事務棟2階会議室II

参加:学校関係者評価委員7名 学校側:学園理事長、校長、事務局長、教頭、総務部長、平成22年度教務部長・進路指導部長・生徒部長

司会進行:事務局長

《学校関係者評価委員の主たる意見》

更なる習熟度別を図り、各々の目的達成を向上させたい。
 授業規律の確立には一層の徹底が必要である。
 授業の工夫に心がければ学力向上につながる。
 授業研究(教員相互、他校との連携)が必要である。
 教員によって熱意に差があるように思われる。

《結論》 学校とは学習の場である。

《学校側》

自己点検評価がやや甘いように思える。
 家庭教育・学習が重要である。
 教員間でのディスカッションがもっとできると良い。
 学校とはどうあるべきかが大切である。
 学校関係者評価は校長評価と認識している。